

# あしがら 農の会

通信 2017年 5月号

第180号 平成29年卯月新月(2017.4.26)発行

発行 NPO 法人 あしがら農の会 <http://nounokai.com/>  
代表 岩本 正 090-9820-4221(携帯)

編集 石井智子 090-3502-1353(携帯)  
bombalurina@savanna.dti.ne.jp (石井)

有機な仲間たち  
其の57

「小田原市の鳥獣による被害と対策」

小田原市環境保護課 佐藤 和広 さん

西に箱根山、東に曾我の丘陵、中央には酒匂川が流れ、南は相模湾に面している小田原は、一年を通して温暖な気候で、多くの農産物も生産され、都市近郊でありながら、自然環境にとっても恵まれたところに位置しています。

しかし自然が豊かであるが故、人と鳥獣との距離もおのずと近くなり、鳥獣による農作物被害や人家周辺への出没に伴う生活被害が、近年、増加傾向にあります。「どんな動物による被害が多いのか？」という、市内での主な被害は、①大窪地区や早川・片浦地区に生息するニホンザルによる農作物被害や人家侵入、人に対する威嚇、②早川・片浦、曾我、久野、下中の各地区の農地周辺でのイノシシによる農作物被害、③ハクビシン等の小動物による農作物被害、民家の屋根裏への侵入に伴うふん尿被害、④ヒヨドリやカラスなどによる農作物被害などとなっています。

これらの鳥獣による農作物被害等を軽減させるため、市では、ニホンザルの追い払いや個体数調整のための捕獲(猟友会への委託)や鳥獣被害防止対策協議会(事務局:JAかながわ西湘)と連携した有害鳥獣捕獲(イノシシ・シカ、ヒヨドリ・カラス)を行うとともに、農作物等の被害を受けている方が被害防除のために行う有害鳥獣捕獲申請に対する適切な捕獲許可を行っています。こうして捕獲された鳥獣の数の年度ごとの推移は右のとおりですが、捕獲される数は増加しているものの、被害は減少しておらず、鳥獣の生息数や定着が増加・進行しているものと推測されます。

現在行っている取組の強化や有害鳥獣捕獲の担い手の育成に資するため、市と鳥獣被害防止対策協議会では、H29 からの鳥獣被害対策に係る補助制度の拡充を実施しています。

・有害鳥獣捕獲での捕獲に対する捕獲報奨金の交付(新規)、  
侵入防止柵購入費の補助(拡充)[協議会補助、受付:農政課]

## 地場旬自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO 法人化)  
地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

**農産物の宅配:** 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

**田んぼの会:** 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

**お茶の会:** 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

**大豆・味噌の会:** 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

**小麦の会:** 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

・くくりわな購入費等の補助(新規)[協議会補助、受付:JA]  
・狩猟免許取得経費等の補助(新規)[市補助、受付:農政課]  
(各補助等については、事前に 農政課(☎33-1494)又はJAかながわ西湘・組織広報課(☎47-8183)へお問い合わせください。)

また、近年ニホンジカによる被害等も増加しています。有害鳥獣に対する新たな対策、対策強化の検討などには、詳しい被害状況や生息状況、行動範囲等の実態把握が重要となりますので、鳥獣の生活痕跡や個体の目撃情報の連絡、市・JAを通じた有害鳥獣被害届の提出にご協力くださるようお願いいたします。

(小田原市環境保護課 佐藤和広 0465-33-1438)



小田原市での鳥獣捕獲数の推移

	H25	H26	H27	H28
ニホンザル	1頭	7頭	4頭	5頭
イノシシ	63頭	98頭	143頭	254頭
ハクビシン等小動物	111頭	189頭	149頭	200頭
シカ	2頭	6頭	11頭	23頭
ヒヨドリ等	422羽	540羽	397羽	642羽

※ニホンザルは、「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」で絶滅の恐れのある地域個体群と位置付けられているため、群れ管理のための限られた数以上は捕獲できません。



## ◆山北たんぼ、今年も始まるよ～！ 山下良子

2月4日に粗起しをして今年も始まるぞ！と思っていたところ、地主さんが山まで来て下さいました。何かあったかしら？と「田んぼを返して欲しい。」との事。2～3年前は都市計画で宅地にするという話題がありました。今回は第二東名の資材置き場になるらしいとの事でした。地主さんが必要なときはお返しするとの約束ですから、お返しすることにしました。新年計画会の時に皆さんに田んぼを返した事を了解して頂き、お返しする田んぼにある竹置場を別の田んぼに移しました。

その後、またまた地主さんが山に来ました。資材置き場になるのは来年の1月からだから、今年一年は続けて下さいと。二転三転と話が変わりましたが、なぜかホツとした一幕でした。

4月8日は種まきの日でしたが朝から雨が降り、どうなる事やらと思いながら金井島の機械小屋で親子田んぼと一緒に作業。箱苗を苗田に置く時は雨が止んで、降っても霧雨くらいで、皆さんの日頃の行いが良かったからでしょうね。種まきをしながら、土が足りないかしら？と心配をしましたが、皆さんに「大丈夫だよ」と言ってもらい、丁度間に合い心強い限りでした。その外にも苗箱を置く場所に油粕を播いて準備して置いたのにも関わらず、実際苗箱は別の場所を指定してしまったり。山下のヘマは続き、皆さんに迷惑をかけてしまいました。みなさん、ごめんなさい。

それからお知らせです。5月14日(日)は秦野丘陵にヤギと一緒にハイキングを楽しみませんか！歓迎！山ガール。

## ★今年の米作りを耕運機で占う！

新永塚たんぼ 大瀬隆義

私が、新永塚田んぼで、米作りに参加させてもらって、早いもので17年目となった。米作りを始めることになった時、兼業農家の友人から、使わなくなった耕運機とバインダーを頂いた。バインダーは2年使って、すぐ壊れてしまったが、耕運機はいまだ健在である。既に30年以上、使われていると思われるが、名機は不滅というか、部品はいまだに入手できる。ただ、なかなかの頑固物でなかなか言うこと聞いてくれない。毎年の米作りは、冬を越してこの頑固者耕運機のディーゼルエンジン掛けの奮闘から始まる。毎年、同じ様なことを繰り返しているが、初日はエンジン起動用のハンドルを回せど、回せどエンジンは掛からず、体力を使い果たし諦める。2日目にエンジンに詳しい友人の助っ人を頼んで、2人がかりでやる。うまいく年はラッキーだが、大抵は、その友人も体力を使い果して、3日目くらいに色々と考えられる調整してやっと動いてくれる状態である。

さて今年はどうか？ エンジン掛けの日がやってきた。朝から天気は良いが風が強くて、なにやら、嵐を呼びそうな気配を感じながら、始動用のハンドルを回した。「ポッ！ポッ！ポッ！」と一回目にしては掛かりそうな良い感触。いつもと違うぞ！！呼吸を整えて力を込めて、ちょっと長めにハンドルを回す。「ダッ！ダッ！ダッ！」となんと奇跡的に2回目でエンジンが掛かったのだ！拍手喝采！ここ数年間にはなかった好スタートだ。この調子で、今年の米作りも順調であってほしい。

## 緑肥利用の稲作農業の実証圃研究

欠ノ上田んぼ 笹村 出

この事業は国の補助金をいただいて行っているものである。農の会では有機農業で10俵取りを達している複数の田んぼがある。全国的に見ても平均以上の収量である。その理由は緑肥利用にもあると思われる。それを安定した広く利用できる技術に整理してゆきたいと考えている。

3月24日の勉強会には神奈川県 農業技術センターの岡野英明さんが来てくれた。また、遠路井上駿さんも来てくれた。有機の里づくり協議会の渡辺さんも来てくれた。①、同じ田んぼで、土壌採集の場所を変えてみる。②、4月ごろと、9月ごろと時期を変えてみる。③、複数年継続して変化を見てみる。④、測定に小松菜を撒いて、試験をしてみる。⑤、緑肥の効果が出る時期をみる。⑥、田んぼへの入水を分析してみる必要がある。⑦、有機農業では穂肥になる糠投入を出穂30日前に行ったらどうか。⑧、落ち葉堆肥を入れたらどうか。⑨、土壌の採取方法を統一しなければならない。細かくふるいにかける必要がある。植物の混入がないように取ること。⑩、土壌診断の図は形にへこみがあると問題があると考えればよいとのこと。ところが農の会の田んぼで唯一問題があると言われた、子ノ神田んぼは、日照条件も一番悪いのに、収量は農の会で一番よい。10俵を超えている。何故だろうか。腐植が良いという事は、やはり意味が有るのだろうか。今後の課題である。

笑ってしまったのは、稲作は気力と根性である。という話はそれなら納得だとみんなが話した。ところが実は地力と根の状態のことだった。

## ゆんたく広場

なんくる農園 松本 邦裕

急遽通信の原稿の依頼を受け…先月も書かせていただいたけど、さて今月は何を書きましょう？ふと考えたら以前は毎月投稿していた。毎月畑の様子を中心に…おおよそ毎年の畑の作業は同じことの繰り返し。毎年同じようなことをコツコツと積み上げていく日々。それがなんくる農園の畑人日記だろうか…

今日は4月25日。ぼちぼち端境期というトンネルの先に一条の光明を見出す時期だろうか。端境期を抜け出す大きなきっかけとなる野菜はなんといってもエンドウ豆。4月の終わりから5月にかけてのほんの一時、豆の収穫に追われる時期なんだけど。去年は春先の暖かさもあり大豊作だったような気がする。でも今年は…何が原因だろうか？エンドウ豆には期待できないけれど、今年はハウス早熟のインゲンとズッキーニを2月から丁寧に育ててきた。ハウスの中でさらにトンネルをして、気温が上がり始めてきたらしっかりと換気にも心がけ、今は毎朝ズッキーニの受粉作業からスタート。ぼちぼち収穫が始まり少しニマリと口元がゆるみ、更にインゲンも花を咲かせ可愛い実もつけだし大きくなるのを心待ち状態。エンドウ豆の失敗を補ってくれるだろうか…

ハウスのトマトもそろそろ着果の時期、明日の朝確認できるかな？初収穫は5月末？6月に入るかな…やっぱりトンネルを抜け出す直前は心ウキウキ…でもトンネルを出た瞬間強風にあおられることだってある。しっかりと気を引き締めなくてはね～…と心配性のわったー！

ともあれこれからあれこれ楽しみがいっぱいのは・た・けこの続きはブログにて、検索は“なんくる農園”にて…



枝先から、「エイッ！」と風を持って舞い降りるさくらの一葉は神々しい。さくらは、さ・くら早・座で神の住まいという意味。山の神は、さくらの花びらに乗って田の神となり、爽りの秋まで稲の成長を見守っている。そしてまた山へと帰って行く。「はなふぶき」は世界で一番美しい音楽と言われる。お花見は、神の移ろいを見つめ、これからの日々を見つめる大切な行事と新聞のコラムにあった。

民は田身、百姓のこと。季節や自然の中に、今日明日の糧を求め、精神性を持って見つめ、生きてきた姿が美しい。米は古来久米と言ひ、熊、蜘蛛、雲などと同じ神と言う意味。無神論者ですが、身近に神とともに在る日々暮らしが面白い。

二週余海水に浸した種モミを播きました。今年は、小夜祭、里自慢の二種類です。明神の堀にある機械小屋は萌え出る緑の中、ワイワイとにぎやかに、時にしずかに集中して取り組む。これからの日々を織り交ぜて取り組む。風の音、鶉の声、うぐいすの声がとてもいいアクセントとなっている。

しあわせな時の中に在ることにふと気づくことになるだろう。

クローバーや、小さな草々を緑肥として山ちゃん田んぼの米作りが始まります。豊後大友氏の鎌倉御家人時代の旧領地は、大友、永塚一帯。大分生まれにとって、大友氏の民となって米作りをしている錯覚に陥ります。縁というものは牽しいものです。

横に流れる風の中で、遥か大友氏に思いを馳せて米作りを楽しんでいます。古里を見つめています。いろいろなご縁が糧に飛び込んで来てとてもしあわせです。

私の家の山の神はとても元気でありがたい、ありがたい。

『 丘に登る 阿武隈の丘に登る初夏 』 三歩

：山ちゃん田んぼ 山内秀則

## ●視察研修報告

相馬宏充

3月8日、神奈川農業アカデミーが新規就農者向けに開催した有機農業視察研修に参加してきました。訪問先は、藤沢の相原農場と海老名の石川榮一さんのトマトハウス。最後に農業アカデミーで1時間ほど意見交換会がありました。

石川さんの大規模な施設では、CO2など環境を制御してトマトを栽培していました。以前は通常の慣行農家だったようですが、天敵や有効な菌などを活用して農薬の使用を大幅に減らし、被害が出たところだけスポットで農薬を使用する現在の農法に変わってきました。昔は土壌センチュウが一番の問題だったため、もみ殻を大量に入れるようになりました。10aに1.5トン。加えて、米ぬか600キロ、カルス菌60キロ(分解促進)、硫安40キロ(窒素補充、微生物の餌として)を入れて耕耘。これによってセンチュウ被害はゼロになったとのこと。夏には還元消毒として、米ぬかを1.5トン入れて全面マルチします。また、定植時にはトリコデルマ菌(2000倍)をどぶ漬けしてから行います。この菌は繁殖が早く、周囲の有害な菌が抑制されるそうです。

相原農場は既に多くの方が見学したことがあると思いますし、僕も2年ほど前に通信に研修報告を寄稿しました。この冬は白菜ダニの被害が甚大で、アブラナ科の野菜だけでなくホウレンソウも被害にあっていて、大きな課題とのことでした。一緒に研修に参加した銀次さんの畑では、今年は大根サルハムシが大発生したそうです。これらは僕の畑ではあまり出ていませんが、怖いですね。。

先進的な農家の見学は本当に勉強になります。経緯はよくわかりませんが、神奈川県ではこれから有機農業に力を入れていくそうで、また研修を案内してくれるとのこと。楽しみです。

### 農のデータコラム★28

今年のお花見はどちらへ行きましたか？小田原城址公園、城山公園？規模は小さいですが、私は「めだか田んぼ」に関わったこともあり、桑原付近の富士見の桜土手が大好きです。小川の周りに桜と菜の花が合わさり、童謡「春の小川」♪が歌いたくなる風景。そこにはめだかの在来種を含め、国の絶滅危惧種の生物が11種もいるらしい。

この風景は、この土地に住むOさん御家族が今から40年前から、毎日不法投棄されたゴミを拾い、土手を整備し、桜の苗木を植えて、周りに菜の花、レンゲを蒔いて作り出した風景だ。(安藤和夫さんブログ、facebookより)しかし、今はそこに並行して計画されていた幹線道路計画が、このエリアを突っ切って分断してしまっている。風景は道路で分断されても、辛うじて残された生き物のつながりを残そうと『めだかサポーターの会』山田純さんが、地域の農家さん達と協力して「めだか米」を作って田んぼを維持し、めだか達と他の生き物、そして風景を残してくれています。御飯一膳は稲束3束分、その3束でオタマジャクシを35匹生かすことができ、それに付随して他の魚やサギなどの鳥達が生きていける。農業は周辺の生き物を育て、共存している世界を作っている。生き物はつながっていて、そこには良い景色が生まれる。今までは生態系の保全と経済合理性の開発は相容れないことほとんどでしたが、これからは開発でなく、今まで持っていたものを再発見する事が主流の社会になっていくと良いのですが…

小田原市民の皆さま、景観保全と「めだか米」の購入に御協力をお願いします！

黒澤 太 Futoshi Kurosawa



## オーストラリアは危ない!

3月中旬から四週間、オーストラリアのクイーンズランド州で過ごしました。宿は熱帯雨林の中のきれいな家でした。宿の主人と会うとすぐ「素足で歩かないでね」と注意されました。この辺には犬糞線虫がいるからです。犬糞線虫というのはごく小さな線虫で、足から体に入ると体のあちこちに食い込んでかなり重い病気を起こします。「ダニにも気を付けてね。」「ダニって?」「麻痺ダニと言います。これに血を吸われると、名前の通り身体が麻痺してきます。」「じゃ、いろんな怖い動物がいますね。」「動物だけではなく危ない植物もありますよ。」「例えば?」「一番危ないのはギンピ・ギンピです。この木全体を刺毛が覆っていて、それに触れたものには有毒な神経毒を送り込みます。もちろん人間にもです。一回刺されるとその痛みが半年間も続くそうです。」「あっ、楽しい!では森を辞めて海のほうへ行こう!」「泳ぐの?」「はい。」「辞めたほうがいいよ。」「サメ?」「ワニ!1971以来31人もオーストラリアでワニによって殺されました。去年この近くのビーチで泳いでいた46歳の女性がワニに襲われてしまう事件が起きました。捕らえられたワニの胃の中に彼女の大腿骨が見つかりました。」「気持ち悪い!」「クラゲもいます!イルカンジクラゲは3cm四方の小さなクラゲで毒液はコブラの100倍、タランチュラの1000倍程度です。」恐ろしい話でした。ずっと部屋の中で過ごしたほうがいいかなと思いつつ寝室に入りました。あれ!ベットの下へするする滑り込んだのは?蛇でした。オーストラリアはお勧めです。

Paul Courtney (ポール・コートニー)

木村こうじ店(伊勢原)

### 木村さんのお話のメモ 笹村 出

1. 手入れについては8時間サイクルで4回。
2. 麴菌を植え付けるときは上からパラパラと撒くだけ。
3. 出麴して冷ましてから、塩を1割混ぜて発酵を止める。味噌づくりには向いている。油断すると冷蔵庫の中でも再発酵をする。
4. 手入れの際はお米は出来るだけパラパラにする。
5. お米は強い蒸気で40分蒸す。大豆は蒸すと黒くなるので商品には向かない。
6. 麴室湿度は95%でやる。室温は20度。
7. 麴作りに良い季節というのはない。寒仕込みの思い込みは2月が忙しくなるので困る。あえて言えば9月ごろがやりやすい。
8. 熱湯消毒が一番。アルコール消毒も気休めで使う。
9. 部屋の麴菌を使う手法はよほど良い環境の所だけのこと。
10. お米はインディカ米が良い。新米より古米が良い。
11. 麴は紙袋に入れて、ビニール袋に入れない。

## オランダはオランダ人が作った

瀬戸知子

オランダ旅行してきました。「世界は神が作ったけれどオランダはオランダ人が作った」という諺があるくらい、半分水面下にあった土地を、水車の力で排水し、時にはドイツから土を買って埋め立て、何とか現在の国土を確保した国。それだけに地面はあくまで真っ平ら。郊外を通る汽車の窓から見ていると、とにかく見渡す限りが牧場や畑。一区画が長さ数百メートルかと思われるような圃場で、いやトラクターに乗ってても居眠りしちやいそう!

チューリップ栽培の盛んな地域では、その何haもありそうな畑一枚一枚が、赤黄ピンク白などのチューリップの絨毯。参りました。

さすがに風車の国だけあって、その広い土地には現代の風車があちこちに林立しており、自然エネルギーへの意欲が伺われます。昔の風車はもう歴史的価値でしかありませんが、見学すると、あの太い本体は住居となっており、居間や寝室、台所などが狭い階段で結ばれています。そして屋根は茅葺のものが多い。胴体(家)部分すら茅葺のものがありました。茅葺って日本独特のものじゃあなかったのね!

小麦の会・ピザパーティーの締めに、ダッチオープンで!

### ★ハッセルバックポテト レシピ (田中晃子)

じゃがいも(メークイン)はしっかり洗い、皮付きのまま、2本の箸の間に置く。下まで切らないように2~3mm間隔で切り込みを入れる。水にさらしながら、切り込み部分を洗ってぬめりを除き、水気をふく。アンチョビソースやチーズなどをかけて230度のオープンで40分焼く。

..... お知らせ .....

- 卯月新月 4/26 ○ 卯月満月 5/11 ● 皐月新月 5/26
- 5/2 八十八夜 · 5/4 土用明け
- 5/5 [立夏] · 5/21 [小満]

### 5月度定例会 5月13日(土) 18:30~

@生涯学習センター けやき第3会議室 \*担当:大豆の会

#### ◎田んぼの会: 5月後半~6月前半の土日に、

足柄地域各地で田植えがあります。体験してみたい方を受け入れます。希望者はメールで申し込んでください。

sasamura.ailand@nifty.com (笹村)

#### ◎小麦の会: 4月16日に除草した。もう一度除草が必要か? (近藤)

#### ◎お茶の会: 2017 お茶摘み予定を変更しました。

5月5日(金)、7日(日) 予備日 5月6日(土)

分配会 5月13日(土) 13:00~ @尊徳記念館

[問:申込] 市原 nounokaiocha@gmail.com

.....

#### ◇小田原まちなか 朝市 @平井書店駐車場

5月14日(日) 7時半~9時半

#### ◇小田原まちなか 軽トラ市 @銀座通り南街区

5月28日(日) 10時~13時半

[通信が置いてあるお店] ポタジェララ/カフェブラッサム/バックシュトゥーベ IMAYA/えれんな ごっそ/がらんどろ/かふえ・えりむ/和カフェ ChaCha/井上種苗/ハルノキ/café sympa-38-/ビーンズビレッジ/ササキ補習教室/NONCAFE/Cafe ひみつち/ame 元 café/フロマー・ジュ/ペーカリー・アスラン/fumoto/ Rythme hair dressing/グリット/悠久庵/縁-えにし/ナヤカカフェ/ロコモケア